

## つまらないタイトルの番組

松浦 純子

正月も終わった週の土曜日に、そろそろテレビの番組も普段通りに戻ったかなと思って番組表を見ていたら、BSプレミアム欄に「名品の来歴、再 洋時計」というのがあった。あまり興味はそそられないな。

ひと仕事終わって、テレビを見ながらお茶でも飲もうと思ってスイッチを入ると、偶然その番組をやっていた。一六〇九年にフィリピンからメキシコに戻るスペイン船が千葉県御宿沖で座礁して、多数の乗組員が海岸に漂着した。その時沿岸の住民は体を張って彼らを救助したという話だった。日本近海の外国船の事故では、和歌山県沖で座礁した一八八六年のイギリス船ノルマントン号や、一八九〇年のオスマン帝国の軍艦エルトゥール号が有名だが、この二つよりはるかに前の出来事だった。

ところで、スペイン船の座礁と洋時計の関係はこうだ。当時、スペインはメキシコからフィリピンまでメキシコ銀を運び、そこで中国商人が持ってきた絹や陶磁器を銀で購入し、メキシコに運ぶ。中国に根拠地のないスペインは、ポルトガルと違い、中国以外の場所を取引するしかない。しかも明は海禁策を採っていたので、一般の商人が貿易をしようと思えば密貿易という手段になる。一六一一年、スペイン国王フェリペ三世から当時の日本の最高権力者の家康に海難救助のお礼として洋時計が贈られた。家康は一六〇五年に將軍職を退いていたので、時代は秀忠の世だったが、スペインにとって日本のエンペラーは家康だった。

この時計には、銘板が二枚張り重ねられていて、下は一五七三年にブリュッセルでトロエステンベルクが、上はマドリッドで一五八一年にハンス・デ・エバロが制作したと彫ってある。前者は神聖ローマ皇帝カール五世の、後者はその息子フェリペ二世の王室時計師として活躍した職人だ。どちらの職人が作ろうと、ハプスブルク家全盛期の親子の下で作られた時計ということだけで感激だった。つまらないタイトルの番組だったが内容は面白く、見てよかった。